

Creative Application A24

文化とメディア実装1

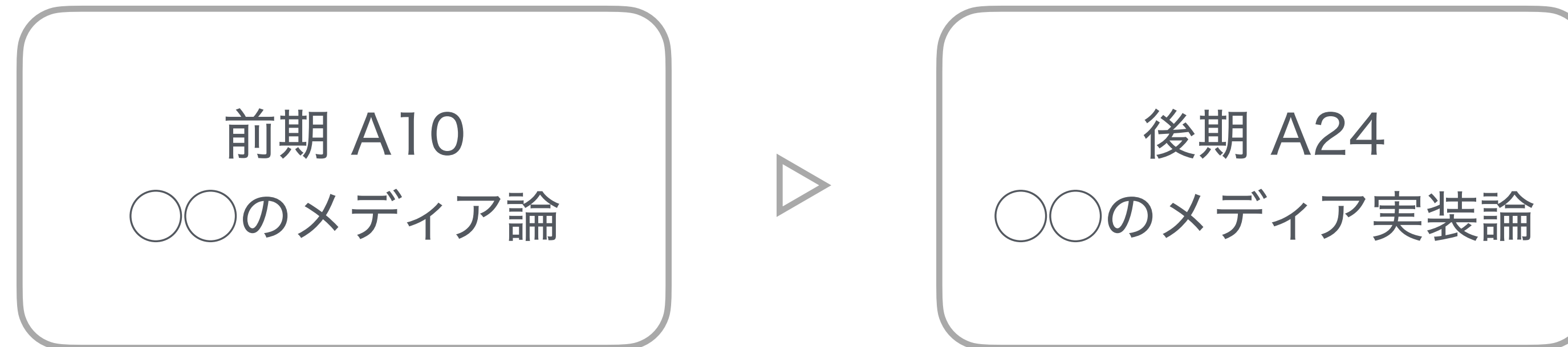
「マルチメジャー」 折衷と合一

2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます, 答えのない議論があります
- ・ 前半で1テーマの紹介, 後半でテーマを深める議論を行います
- ・ 前期と後期がリンクしています. 予習復習の参考にしてください



本日のテーマ

- ▶ **分野をつなぐ感性を育む**

前期概要

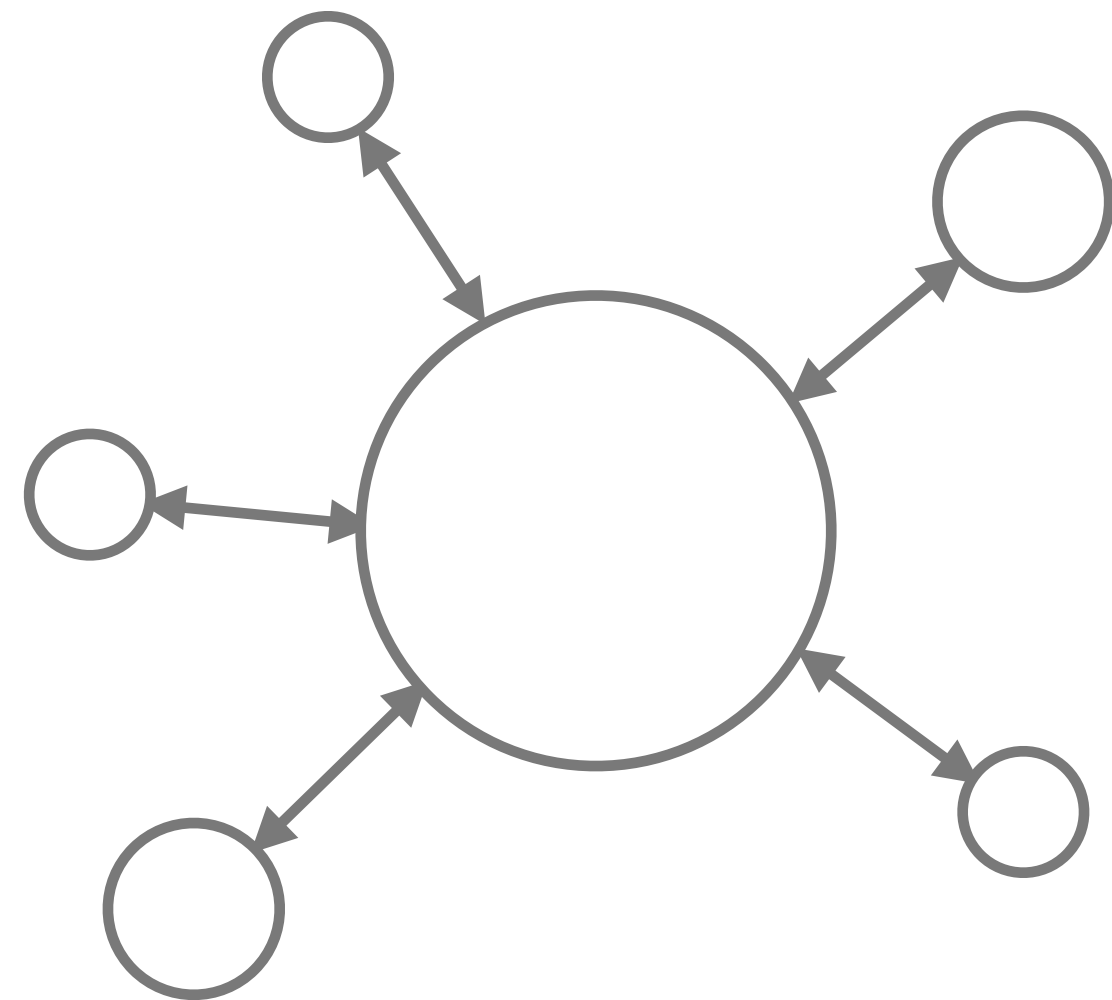
- ▶ 東洋思想を概観し, 西洋哲学との違いや共通点を議論した
 - ▶ 西洋: 主客の境界を明確にするアプローチ
 - ▶ 東洋: 主客の境界を解き放つアプローチ
- ▶ 自己は関係性の中に浮かび上がる
 - ▶ 外界との関わりの中から自己を見出す

折衷と合一

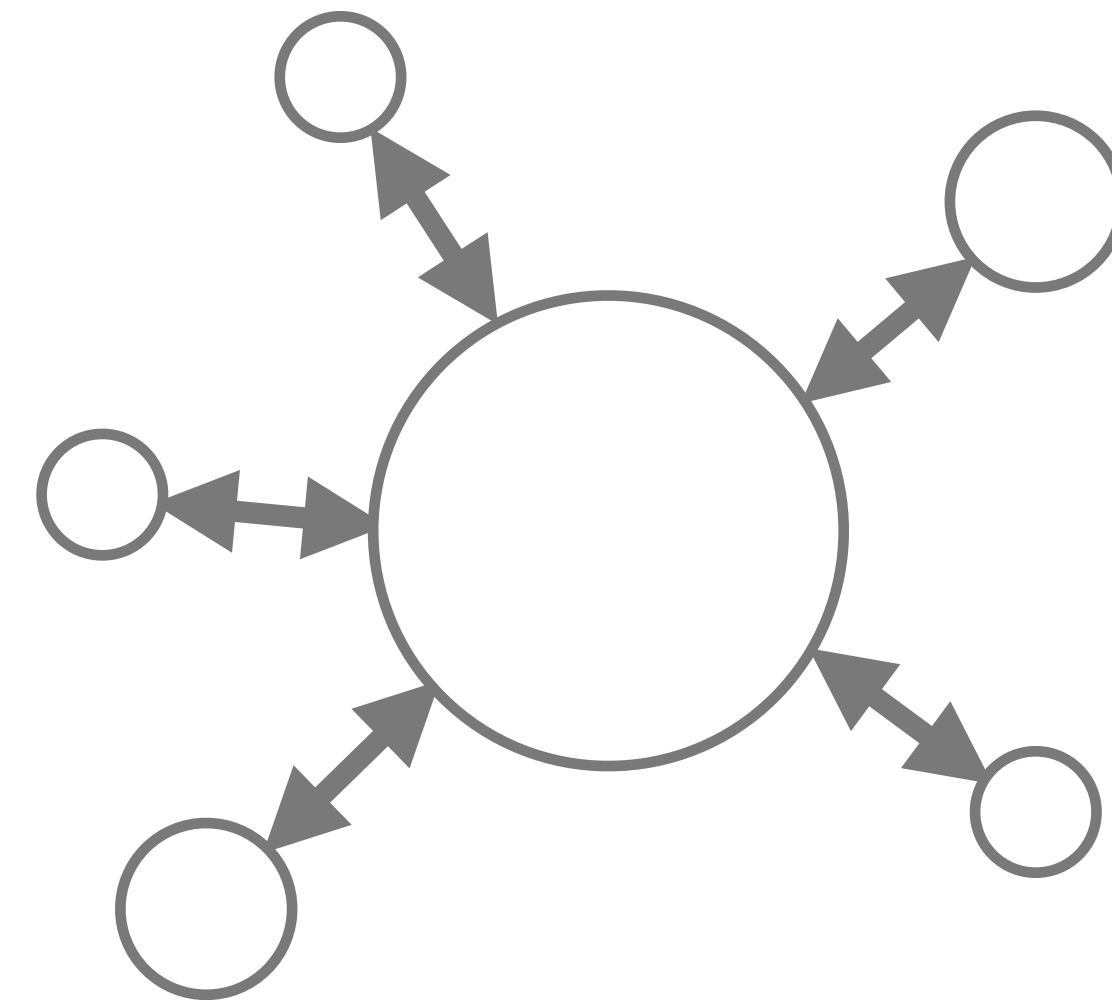
- ▶ 折衷: 異なる考えの極端を捨て, ほどよいところを取り合わせる
- ▶ 合一: 一つに合わせること
 - ▶ 主客合一(西田幾多郎)
 - ▶ 主体が客体を認識するときに客体と合一すること
 - ▶ この状態時, 主体は客体の出来事を自身の出来事のように捉えたりする
- ▶ 従来から, **折衷や合一などの主観と外界の間をまたぐ概念**の注目度が高い

折衷・合一と分野の相互作用

- ▶ (仮説) 折衷や合一の感性は、他分野への理解の助けになるのではないか
 - ▶ 演繹的ではあるが、分野をまたぐメディア性に役立つ概念ではないか



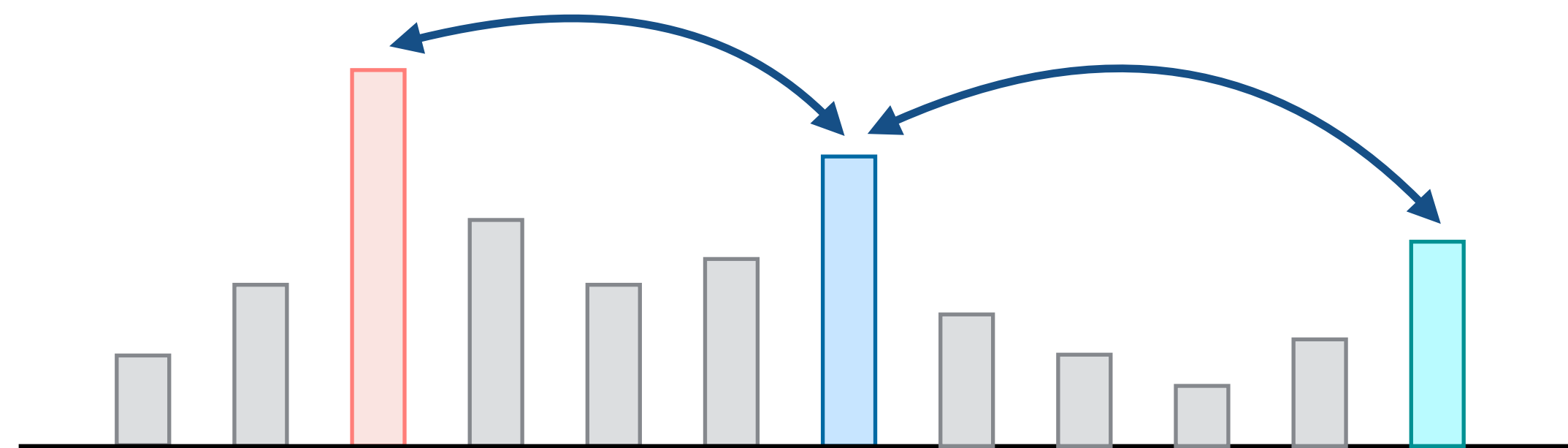
メディア化と分野の相互作用



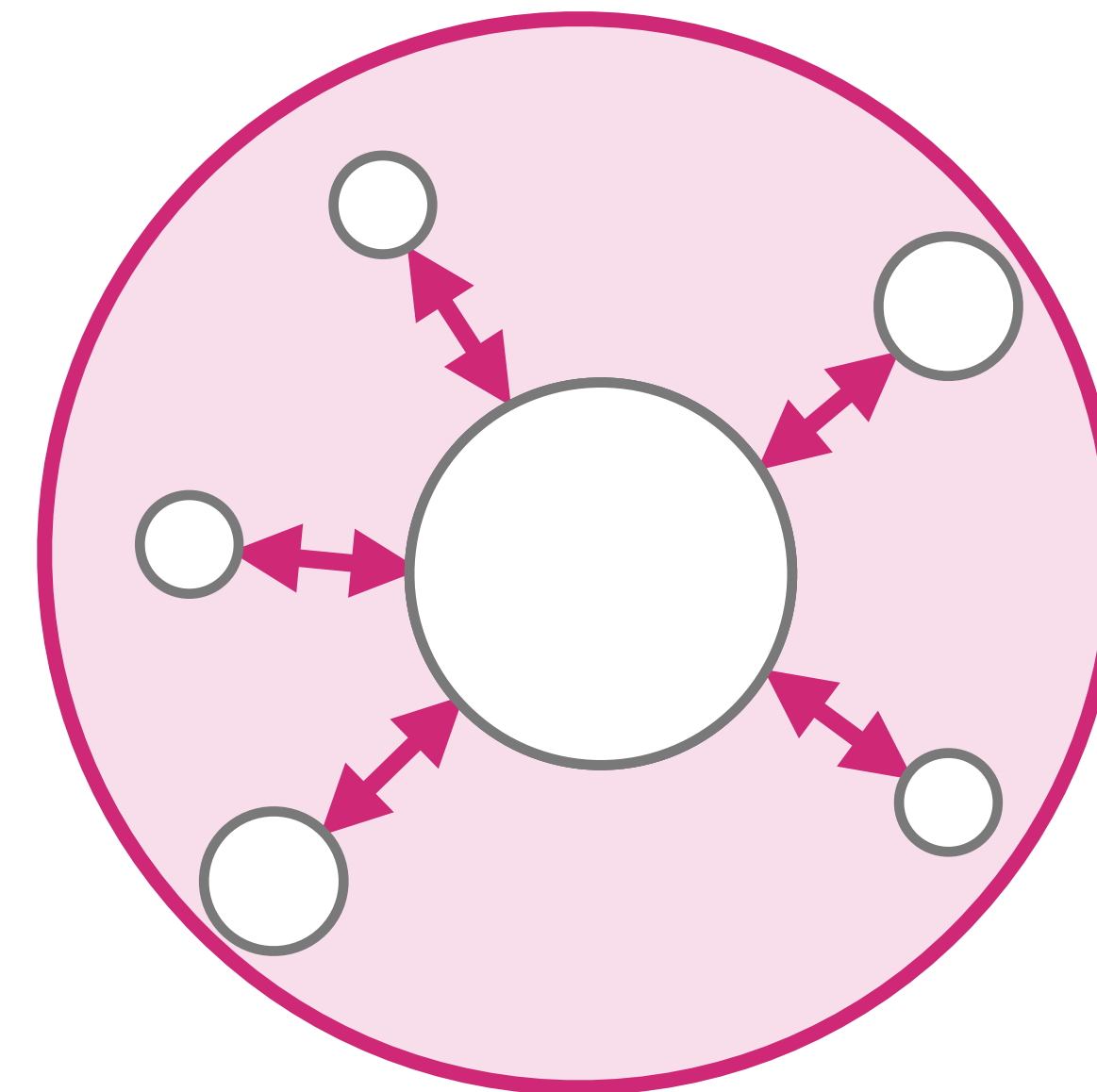
折衷や合一は相互作用を強くする？

マルチメジャーと分野統合

- ▶ 複数分野に通じるマルチメジャーと、それをつなぐメディアとしての役割



マルチメジャー(複数の専門性)



分野混合したメディアの場

まとめ

- ▶ 個人の思考をクリアにするアプローチと主観を解放するアプローチ
- ▶ 分別をした上で、折衷や合一といった感性を活かすのはどうか
- ▶ マルチメジャー
 - ▶ 分野間の交流の中で複数のメジャーが立ち上がってくる
 - ▶ 複数の専門分野に詳しいだけでなく、またげることが重要

本日の議論・考察一助

- a. メディア学において専門性とはどう捉えると良いだろうか
- b. 個人と他者, 折衷と合一の関係を整理したい
- c. **マルチメジャーの成立とメディアの場の成立に関する議論**

次回予定

文化とメディア実装2

「ローカライズ」地域性と精神

参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004